

症例で身につける
消化器内視鏡シリーズ

Knack and pitfall of gastrointestinal endoscopy in Esophageal and gastric ESD with IT knife based on case study

食道・胃ESD

ITナイフによるESDの実際

● 序	小野裕之
-----	------

基礎編—手技のコツとポイント—

第1章 治療法選択のための術前内視鏡診断

① ルーチン撮影法	
1. 咽頭～食道	角嶋直美 12
2. 胃	乾 哲也 16
② 病変部の通常・色素内視鏡診断	
1. 食道	森田周子, 武藤 学 22
2. 胃	池原久朝 26
③ 画像強調 (NBI)・拡大内視鏡診断	
1. 食道	森田周子, 武藤 学 32
2. 胃	上堂文也, 竹内洋司, 石原 立 37
④ 超音波内視鏡診断	大竹陽介 43

第2章 EMRとESDの適応

1. 食道EMRとESDの適応	
	田中雅樹, 蓮池典明, 滝沢耕平, 角嶋直美, 小野裕之 46
2. 胃癌に対する内視鏡切除の適応	後藤田卓志 51

第3章 ESDの実際と基本手技～コツとピットフォール

1. インフォームド・コンセントの重要性とその内容	
	田辺 聡, 樋口勝彦, 佐々木徹, 堅田親利, 小泉和三郎, 西元寺克禮 57
2. 局注液の種類と特性	藤城光弘 60
3. 高周波電源装置と条件設定	森田圭紀 63
4. スコープの種類・機能・選択	炭山和毅, 田尻久雄 67



マークがついている項および実践編のすべての項は、
付属のDVDで動画をご覧いただけます

5. ITナイフ1とITナイフ2の違い・使用法	小野裕之	70
6. ITナイフによるESDの基本手技		
1) 食道	蓮池典明	76
2) 胃	小田一郎	80
参考) ITナイフ2を用いた大腸ESD	山口裕一郎	84
7. 看護師・内視鏡技師の役割	須原真弓	88
8. 術中・術後管理	西元史哉	94
9. クリニカルパス	中島孝治, 小野裕之	97
10. 切除標本の取扱いのコツとピットフォール	二村 聡	101

第4章 偶発症対策

1. 術中・術後の出血対策	滝沢耕平	106
2. 穿孔対策	南 伸弥, 宮島治也	110

実践編—Case Study：部位別・難易度別攻略法—

第1章 食道

1. 頸部食道病変	角嶋直美	114
2. 胸部下部食道病変	田中雅樹, 小野裕之	117
3. バレット食道癌	草野 央, 谷口浩和	122

第2章 胃

1. 幽門輪近傍，十二指腸浸潤例	滝沢耕平	129
2. 前庭部前壁，後壁	平良高一, 荒川哲男	135
3. 前庭部小彎	佐川 保, 佐藤康裕	139
4. 胃角小彎	永田 健	145
5. 体下部前壁	中川昌浩	150
6. 体中部小彎	深尾俊一, 舟曳純仁	155
7. 体中部前壁	鈴木晴久, 谷口浩和	160
8. 体中部後壁	藤城光弘	165



実践編のすべての項は、付属のDVDで動画をご覧いただけます

難易度：難	9. 体上部前壁	小田一郎，鈴木晴久，谷口浩和	169
難易度：難	10. 体上部後壁	土山寿志	176
難易度：普	11. cardia小彎	住吉徹哉，近藤 仁	181
難易度：普	12. cardia後壁	粉川敦史	187
難易度：難	13. 体上部大彎	小野裕之	190
難易度：超難	14. 胃底部	後藤田卓志，谷口浩和	195

第3章 大きな病変

難易度：普	1. 胃体上部，後壁から小彎にかけての5 cm大の病変	濱中久尚，野中 哲	200
-------	-----------------------------	-----------	-----

第4章 潰瘍瘢痕のある症例

難易度：難	1. 食道遺残再発	蓮池典明	205
難易度：難	2. 胃癌軽度線維化	西崎 朗	209
難易度：難	3. 胃癌高度線維化	土山寿志	214
難易度：普	4. 術後残胃吻合線上	小野裕之	220

第5章 出血が生じた場合の対応・処置

難易度：普	1. 漏出性・動脈性・噴出性の出血	池澤賢治，道田知樹	224
難易度：普	2. 後出血	池澤賢治，道田知樹	227

第6章 穿孔が生じた場合の対応・処置

難易度：難	1. 胃における微小穿孔・大きな穿孔	南 伸弥，高梨訓博	230
難易度：難	2. 食道穿孔	池原久朝	235
難易度：普	3. クリップ閉鎖後気腫への対処（気腹への対処含む）	福永周生	239

第7章 その他の偶発症に対する対応・処置

難易度：難	1. 皮下気腫・縦隔気腫	桐山真典	244
難易度：難	2. 食道狭窄・胃狭窄	堀田欣一	252

索引	258
----	-----

コラム

❖ 化学療法と内視鏡の接点	朴 成和	31
❖ ESDが早期胃癌治療に与えたインパクト	吉田茂昭	56
❖ ITナイフ事始め	細川浩一	75
❖ あの頃、彼らも下手だった	近藤 仁	79
❖ ITナイフによるESDの開発を見守って	斉藤大三	100
❖ 治療開発とは情熱と勇気である	大津 敦	112
❖ EMR時代の内視鏡医	白尾国昭	175
❖ 内視鏡医と臨床試験 ～The New Era?～	福田治彦	208
❖ 内視鏡的切除標本の病理学的検索 ～よもやま話～	下田忠和	257

注1) 本書中での「ITナイフ」の語句の表記につきまして

ITナイフには、本文中で解説されているようにITナイフ1とITナイフ2の2種類がありますが、本書中では、ITナイフ1 & 2を総称している場合やどちらを使用してもかまわない場合は「ITナイフ」と表記しています。

注2) 実践編では各Case Studyにコメンテーターからの補足コメントがあります

実践編 Case Study: 部位別・難症別切除技法

第1章 食道

1. 咽部食道病変

Case 咽部食道病変の内視鏡治療は可能か？

咽部食道病変の内視鏡治療は可能か？と問われることは、近年頻りに聞かれるようになった。この問いに対する答えは、現時点では「可能」ということになる。ただし、この問いに対する答えは、現時点では「可能」ということになる。ただし、この問いに対する答えは、現時点では「可能」ということになる。

Strategy

① 咽部食道病変は、食道の上部に位置するため、内視鏡的治療が難しい。② 咽部食道病変は、食道の上部に位置するため、内視鏡的治療が難しい。③ 咽部食道病変は、食道の上部に位置するため、内視鏡的治療が難しい。

Comment from Dr. ONO

咽部食道病変の内視鏡治療は、現時点では可能である。ただし、この問いに対する答えは、現時点では「可能」ということになる。ただし、この問いに対する答えは、現時点では「可能」ということになる。

Comment from Dr. ONO

切除法は必ずしも1つではありませんので、各症例についての「回答」の後に、その他の方法や補足等を解説しています。

本書コメンテーター（五十音順）：
小田一郎／小野裕之／後藤田卓志



DVDのメニュー一覧

トップメニュー【収録時間：約1時間40分】



見たいメニューをクリック。
さらに詳細なメニュー画面に



左カーソルで
トップメニューへ

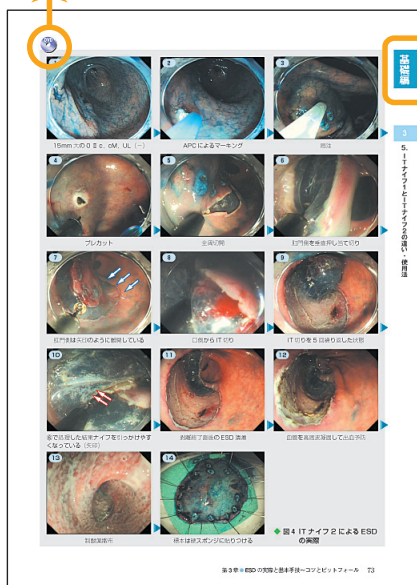
右カーソルで
メニューの続きへ



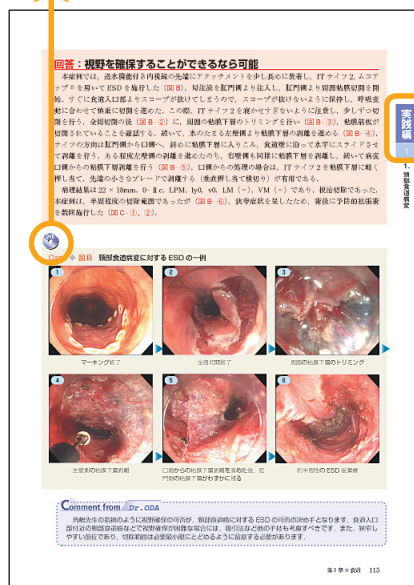
本文中のDVDマークについて



基礎編-第3章-5～6の
DVDマークがついている
図は、付属のDVDで動画
をご覧いただけます



実践編にて「Case」として
呈示した図は、付属のDVD
で動画をご覧いただけます



収録内容

※ページ数は本文参照ページです



基礎編－手技のコツとポイント－

第3章 ESDの実際と基本手技～コツとビットフォール

5. ITナイフ1とITナイフ2の違い・使用法	[3:56]	p.70	参考：ITナイフ2を用いた大腸ESD	[3:26]	p.84
6. ITナイフによるESDの基本手技					
1) 食道	[3:17]	p.76			
2) 胃					
動画-1	[0:20]	p.80			
動画-2	[0:13]	p.80			
動画-3	[0:14]	p.80			
動画-4	[0:27]	p.80			
動画-5	[0:50]	p.80			
動画-6	[0:46]	p.80			
動画-7	[0:42]	p.80			
動画-8	[0:31]	p.80			

実践編－Case Study：部位別・難易度別攻略法－

第1章 食道

1. 頸部食道病変	[3:03]	p.114
2. 胸部下部食道病変	[3:18]	p.117
3. バレット食道癌	[3:08]	p.122

第2章 胃

1. 幽門輪近傍，十二指腸浸潤例	[3:06]	p.129
2. 前庭部前壁，後壁	[2:18]	p.135
3. 前庭部小彎	[3:08]	p.139
4. 胃角小彎	[2:14]	p.145
5. 体下部前壁	[2:50]	p.150
6. 体中部小彎	[2:42]	p.155
7. 体中部前壁	[2:59]	p.160
8. 体中部後壁	[3:16]	p.165
9. 体上部前壁	[4:16]	p.169
10. 体上部後壁	[3:00]	p.176
11. cardia小彎	[2:57]	p.181
12. cardia後壁	[2:43]	p.187
13. 体上部大彎	[2:48]	p.190
14. 胃底部	[3:04]	p.195

第3章 大きな病変

1. 胃体上部，後壁から小彎にかけての5cm大の病変	[3:59]	p.200
----------------------------	--------	-------

第4章 潰瘍瘢痕のある症例

1. 食道遺残再発	[2:25]	p.205
2. 胃癌軽度線維化	[3:09]	p.209
3. 胃癌高度線維化	[3:01]	p.214
4. 術後残胃吻合線上	[3:00]	p.220

第5章 出血が生じた場合の対応・処置

1. 漏出性・動脈性・噴出性の出血	[2:57]	p.224
2. 後出血	[2:12]	p.227

第6章 穿孔が生じた場合の対応・処置

1. 胃における微小穿孔・大きな穿孔		
動画-1	[0:29]	p.230
動画-2	[0:28]	p.230
動画-3	[0:55]	p.230
動画-4	[0:59]	p.230
2. 食道穿孔	[3:01]	p.235
3. クリップ閉鎖後気腫への対処（気腹への対処含む）	[1:27]	p.239

第7章 その他の偶発症に対する対応・処置

1. 皮下気腫・縦隔気腫	[2:57]	p.244
2. 食道狭窄・胃狭窄	[2:32]	p.252